

## 2021（令和3）年度 県政モニターアンケート結果について

目的：本戦略推進の参考とするため、生物多様性に関する意識や保全の取組に対する考え方等についてアンケートを実施しました。

実施時期：2021(令和3)年8月16日～30日

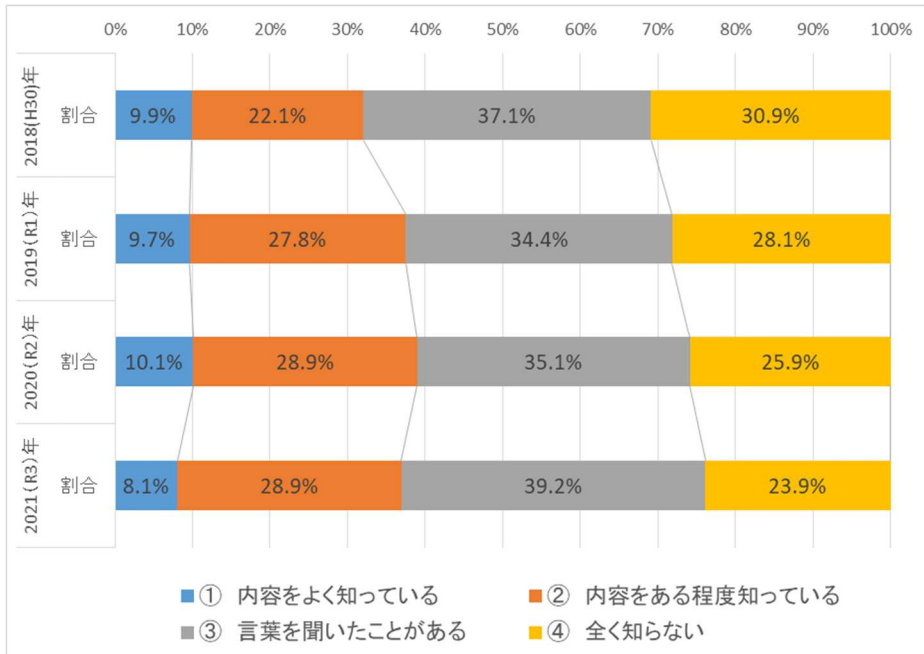
対象：県政モニター 360人

### 1. 「生物多様性」という言葉を知っているか（2018年～2021年実施）

	2018(H30)年		2019 (R1) 年		2020 (R2) 年		2021 (R3) 年	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
① 内容をよく知っている	35	9.9%	34	9.7%	37	10.1%	29	8.1%
② 内容をある程度知っている	78	22.1%	98	27.8%	106	28.9%	104	28.9%
③ 言葉を聞いたことがある	131	37.1%	121	34.4%	129	35.1%	141	39.2%
④ 全く知らない	109	30.9%	99	28.1%	95	25.9%	86	23.9%
合計	353		352		367		360	

※①と②の合算を生物多様性の認知度として扱っている。

### (生物多様性の認知度の推移)



2. 生物多様性に配慮した行動として行っていること（回答 360 人、2 つまで回答可）

	件数	割合
①旬のもの、地元のものを選んで購入する	196	30.1%
②身近な生きものを観察したり、外に出て自然と積極的にふれあう	65	10.0%
③エコツアー（ガイドによる自然体験）に参加する	9	1.4%
④生物多様性に関わる観察・調査・保全・再生などの活動に参加する	21	3.2%
⑤生きものを最後まで責任を持って育てる	116	17.8%
⑥生物多様性や環境に配慮している企業の商品やサービスを優先的に選ぶ	41	6.3%
⑦自然や生きものについて、家族や友人と話し合う	35	5.4%
⑧節電やアイドリングストップなど地球温暖化対策に取り組む	158	24.2%
⑨特に行いたいとは思わない	4	0.6%
⑩その他	7	1.1%
合計	652	

【特に行いたいとは思わないを選んだ理由】

- ・よくわからないから 等

【その他（自由記述）】

- ・庭を自然豊かにしている。蜻蛉やカエル、てんとう虫、チョウ、蜜蜂など生き物が来たり住んだりしやすい環境にしている。また、自分が排出する二酸化炭素を相殺するために木を植えている。木のおかげで直射日光が家に当たらず省エネになる。
- ・環境問題を考える講座を開催しているが、そういった講座やラブアースなどに参加してほしい 等

3. これまでに自然環境や生物多様性の保全活動に参加したことがあるか

	件数	割合
①NPOなどの自然環境保全団体に属しており、定期的に活動を行っている	4	1.1%
②団体には所属していないが、NPOなどの自然環境保全団体の活動に時々参加している、又は参加したことがある	33	9.2%
③保全活動に参加したことはないが、身の回りにある自然に興味を持ち、親しんでいる	130	36.1%
④保全活動への参加や身の回りにある自然とのふれあいに興味を持っているが、参加の方法が分からない、又はきっかけがない	142	39.4%
⑤興味がないので参加したいとは思わない	46	12.8%
⑥その他	5	1.4%
合計	360	

【その他（自由記述）】

- ・自然保護団体に定期的に寄附をしている。

4. 県が実施している生物多様性保全のための取組で知っているもの（複数選択可）

	件数	割合
①福岡県生物多様性戦略	21	4.3%
②県民行動リスト	13	2.6%
③福岡県レッドデータブック	90	18.2%
④福岡県の希少野生生物	51	10.3%
⑤福岡県希少野生動植物種の保護に関する条例	19	3.8%
⑥福岡県侵略的外来種リスト	24	4.9%
⑦外来種防除リーフレット	39	7.9%
⑧地域環境協議会	17	3.4%
⑨いずれも知らない	219	44.3%
⑩その他	1	0.2%
合計	494	

5. 自然共生社会の実現を目指していく上で、県が重点的に取り組むべきこと  
（3つまで選択可）

	件数	割合
①身近な野生生物（ホタル、ツバメなど）や里地里山といった身近な自然の保全	232	23.6%
②希少な野生動植物やその生息地の保全・保護	143	14.6%
③野生鳥獣（シカ、イノシシなど）や外来生物による被害の防止	125	12.7%
④環境教育の充実	152	15.5%
⑤生物多様性に関する各種情報の発信・提供	85	8.7%
⑥生物多様性保全の取組を進めるための科学的なデータの集積や調査・研究	46	4.7%
⑦生物多様性の保全に取り組む民間団体への支援	59	6.0%
⑧環境に配慮した公共工事の推進	127	12.9%
⑨分からない	7	0.7%
⑩その他	5	0.5%
合計	981	

【その他】

- ・ 小学校から高校までの過程で、生物多様性についてしっかりと教育を行うことが必要
- ・ 生物多様性に関する情報のひとつに、生物多様性が失われた場合に身近に起こる問題（旬のものがなくなり食べられなくなる等）やこのまま自然共生社会の実現がスムーズにいかず環境破壊が進むことで起こりうる生活の変化など、私達にとってデメリットになることを具体的に教えてほしい 等

6. 生物多様性の保全等について、地域での自主的な取組を推進するために、県はどのようなことを支援すればよいか

	件数	割合
①地域の活動に対して資金等を助成する	75	20.8%
②市町村やNPO・事業者等に対して生物多様性保全活動への助言や技術指導を行う	49	13.6%
③地域の活動に対して生物多様性に精通した人材を紹介・派遣する	44	12.2%
④生物多様性に精通した人材を育成するための研修会を開催する	53	14.7%
⑤誰でも取り組めるような生物多様性保全活動のためのリーフレットを作成し、周知・配布する	129	35.8%
⑥その他	10	2.8%
合計	360	

【その他】

- ・長期的な視点から、学校教育に力を入れるとよい。
- ・小・中学校のカリキュラムに入れる、夏季休暇等の共通課題とするなど、若者への啓発を行うことで、家庭でも話題となり、大人の啓発にもつながる。
- ・親子で自然に触れるイベントを開催し、楽しみながら学べる企画をするのがよい。
- ・セミナー、YouTubeでの配信、福岡県庁LINEでの配信 等

7. これまでの設問以外での自然との共生についての意見

- ・未来を担う若者に対する環境問題の教育をぜひとも強化してほしい。
- ・河川の護岸工事など自然に配慮した工法を検討してもらいたい。
- ・県民の意識や考え方をより高めていき、共生に向けた県全体での水準の底上げが必要。
- ・リーフレットを各自治会まで落とし込んで配布し多数の方に情報提供したほうが良い。
- ・若い世代が農業をする機会を設けるのはどうか。
- ・外来種が増え、気候変動も激しく甚大な災害も増えてきた。我々もSDGsや環境対策等、出来ることをしっかり考えて環境対策に注視していかなければならないと痛感する。
- ・「生物多様性の保全」などについて、県民が理解し一人ひとりが出来ることを確実にやっていくことが大切。そのための広報や具体的な体験等の機会を増やすことが重要。
- ・保全活動をしている団体を取り上げ、取材して、広く、紹介すると思う。
- ・県としてこのように取り組んでいるということをもっと多くの人に知らせる必要がある。 等